

5. 環境の整備と保全についてのまとめ	111
1) 水質保全対策	111
2) 植物・動物保全対策	111
3) 景観保全対策	111
4) 工事中の環境保全対策	111

6. モニタリング	112
-----------	-----

用語解説	113
------	-----

(本文中で右肩に番号を付した用語について解説をしています。)

巻末資料 1

○ 動植物現地調査の概要	121
--------------	-----

巻末資料 2

○ 現地調査で確認された動植物	149
-----------------	-----

別 添	182
-----	-----

関係地域住民からの御意見に対する事業者の回答

第 1 部 猪名川総合開発事業の概要

1. 目的

猪名川総合開発事業は、余野川ダム及び河川浄化施設を主要施設としているもので、洪水調節¹⁾を行うとともに、流水の正常な機能の維持並びに水道用水の供給を行うことを目的としています。

1) 洪水調節¹⁾

昭和46年12月改訂の淀川水系工事实施基本計画²⁾において、堤防の大幅な引堤改修が非常に困難であるため、猪名川の治水計画は、河川改修と一庫ダム及び余野川ダムによる洪水調節¹⁾との組み合わせで行うことになっています。

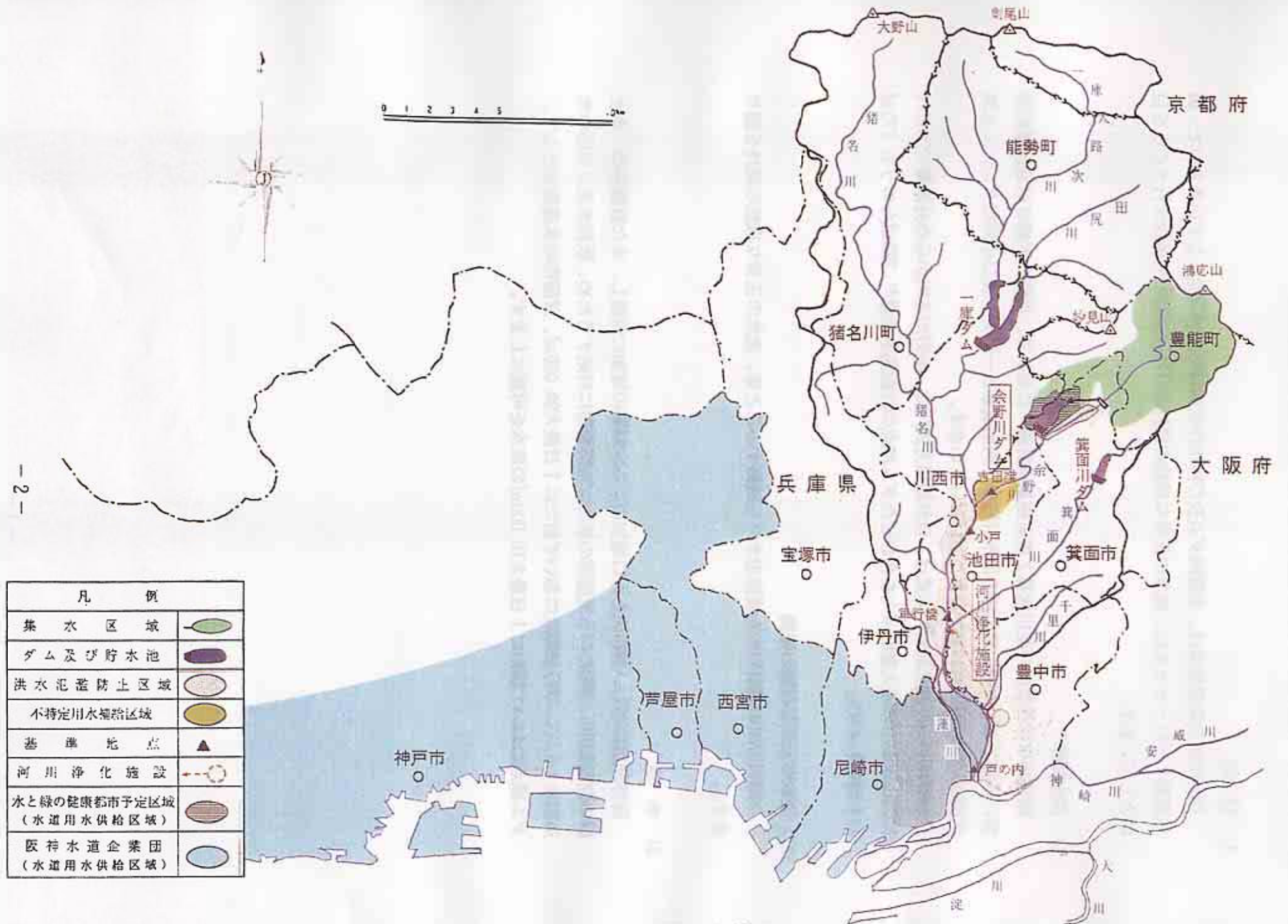
余野川ダムの洪水調節¹⁾方式は、自然調節方式³⁾で、余野川本川からの分派量 220 m³/s に北山川からの流入量60 m³/sを合わせたダム地点の計画高水流量⁴⁾ 280 m³/sのうち 270 m³/sを調節します。

2) 流水の正常な機能の維持

余野川沿川の既得用水と維持用水⁵⁾を確保すること等、流水の正常な機能の維持を図ります。

3) 水道

阪神地区の著しい都市化と人口増加による水需要の増加に対処し、また計画中の「水と緑の健康都市」開発に伴う箕面市の新たな水需要等に対処するため、阪神水道企業団の水道用水として、軍行橋地点において新たに1日最大90,000 m³、箕面市の水道用水として、ダム地点において新たに1日最大10,000 m³の取水を可能にします。



凡 例	
集水区域	
ダム及び貯水池	
洪水氾濫防止区域	
不特定用水補給区域	
基準地点	
河川浄化施設	
水と緑の健康都市予定区域 (水道用水供給区域)	
医社水道企業団 (水道用水供給区域)	

図 1-1-1 余野川ダム位置図

2. 余野川ダムの概要

1) 位置及び型式の選定

一般にダムサイトの選定にあたっては、その集水面積、貯水可能容量、地形、地質、水没地の状況等を総合的に勘案して選定することとしています。

余野川ダムの建設位置の検討にあたっては、余野川本川については、地形的に狭窄部がなく、ダム建設に適さないことから、余野川の支川で検討しました。

余野川の支川北山川では、地形的、地質的にダム建設に適しており、また、必要な貯水容量の確保が可能であり、なおかつ、水没家屋が存在しないことから本ダムサイトを選定しました。しかし、この北山川のダムサイトは集水面積が小さく、自己流域だけでは治水、利水上十分な機能を発揮することができないため、余野川本川とダム貯水池を導水路トンネルで連絡し、余野川本川の洪水及び低水を分派導水し、ダムに貯留することにより効率的な洪水調節と水資源開発を行うこととしました。図1-1-1 及び図1-2-1 にその位置を示します。

ダム型式は地形地質等を勘案して重力式コンクリートダム⁶⁾としています。なお、ダムの平面図及び断面図は図 1-2-2及び図 1-2-3のとおりです。

2) ダムの諸元

位	置	左岸 大阪府箕面市下止々呂美地先 右岸 大阪府箕面市下止々呂美地先
型	式	重力式コンクリートダム ⁶⁾
堤	高	79.0m

3) 貯水池

集水面積	27.8km ² (直接流域5.0km ² , 間接流域22.8km ²)
湛水面積	0.70km ²
総貯水容量	17,600,000m ³
有効貯水容量	17,000,000m ³
常時満水位	E L 192.0m
サーチャージ水位	E L 211.0m

貯水池容量配分図を図 1-2-4に示します。

4) 放流設備

洪水吐き⁷⁾

常用洪水吐き オリフィス⁸⁾ 2条

非常用洪水吐き クレスト⁹⁾自由越流

利水放流施設 選択取水設備¹⁰⁾ 1式

5) 導水施設

位 置 大阪府箕面市上止々呂美地先

分派堰 1式

導水路トンネル 1式

導水路の位置及び構造を図1-2-5 に示します。

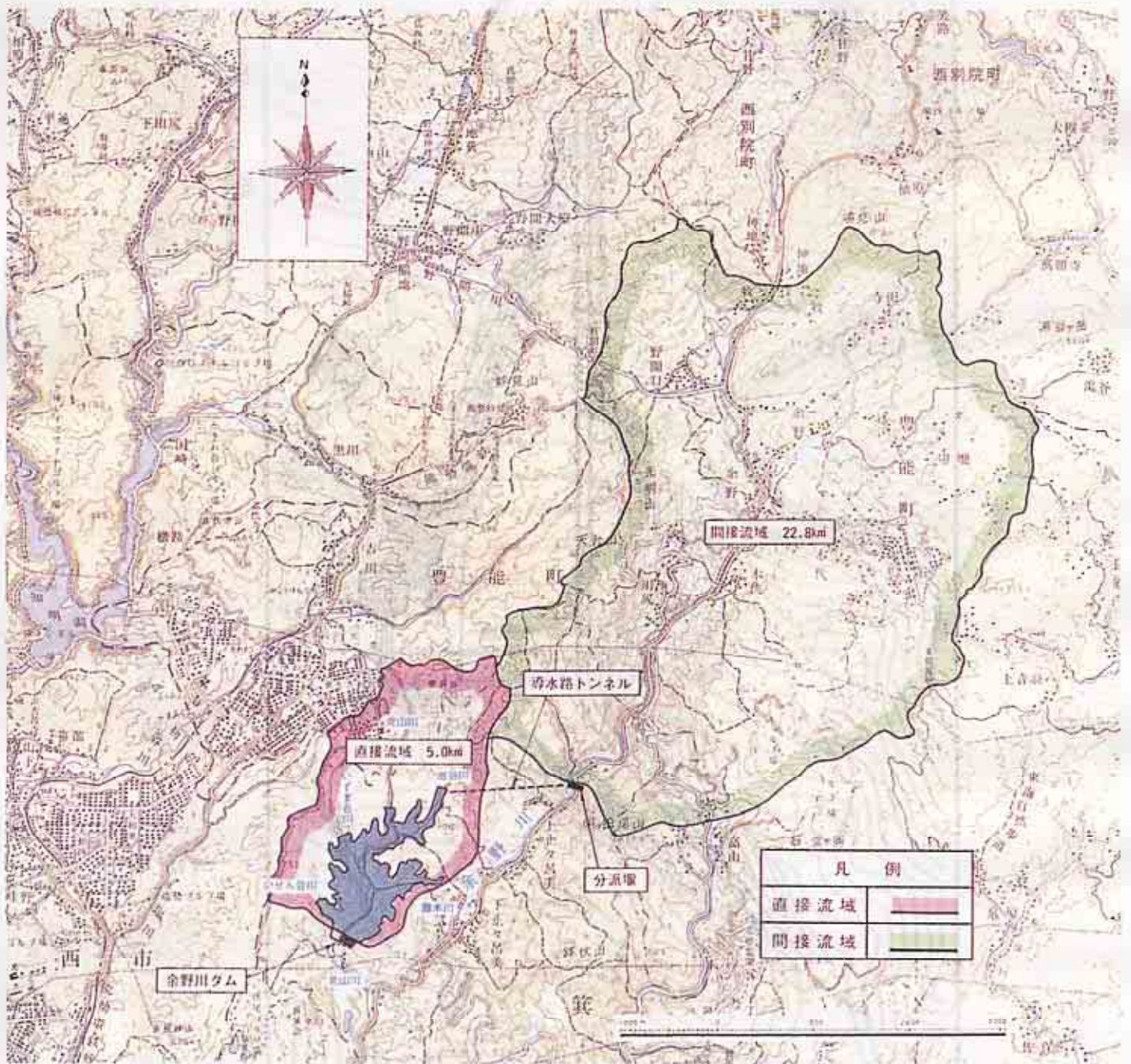


図 1-2-1 余野川ダム計画と流域